分野：器官系統病態学

主科目 副科目	循環器病学 Cardiology DM_1417	区分	選択必修	授業形態	演習 (講義・実習含む)

担当	教 授	准 教 授	講 師	助 教	客員教授・その他
－					
ちば	◎中村 文隆	天木 幹博		吹野 恵子	
溝口	◎速水 紀幸 (病院教授)	鈴木 伸明	白鳥 宜孝	西出 征司	

	循環器病学Ⅰ (1年次)	循環器病学Ⅱ (2年次)	循環器病学Ⅲ (3年次)
	単位 4単位 配当年次 1年・通年	単位 4単位 配当年次 2年・通年	単位 4単位 配当年次 3年・通年
概要	昨今の医学の進歩により、より疾患に特化したあるいは細分化された医療が行われるようになっているのが現状である。 総合内科医として全般的な内科診療能力の向上を図りながら循環器専門医資格取得を目指し、循環器領域のさまざまな病態に対応できる専門的知識の取得と技術の鍛錬を行う。 循環器領域の重要なテーマ、診療上の必要事項について理論的学習を行う。運動負荷心電図、負荷心筋シンチグラム、心エコーの実習を教員について実臨床で行う。 心臓カテーテル検査にスタッフとともに携わり、操作および結果の解釈について演習を行う。	1年時に引き続き、総合内科医として全般的な内科診療能力の向上を図りながら循環器専門医資格取得を目指し、循環器領域のさまざまな病態に対応できる専門的知識の取得と技術の鍛錬を行う。 循環器領域の重要なテーマ、診療上の必要事項について理論的学習を行う。運動負荷心電図、負荷心筋シンチグラム、心エコーの実習を教員について実臨床で行う。 心臓カテーテル検査にスタッフとともに携わり、操作および結果の解釈について演習を行う。 循環器領域の専門的治療技術(心血管インターベンション・ペースメーカ植え込み・カテーテルアブレーションなど)について演習を行う。	2年時に引き続き、総合内科医として全般的な内科診療能力の向上を図りながら循環器専門医資格取得を目指し、循環器領域のさまざまな病態に対応できる専門的知識の取得と技術の鍛錬を行いつつ、基礎的臨床的研究を行うことのできる能力を修得する。 循環器領域の重要なテーマ、診療上の必要事項について理論的学習を行う。運動負荷心電図、負荷心筋シンチグラム、心エコーの実習を教員について実臨床で行う。 心臓カテーテル検査にスタッフとともに携わり、操作および結果の解釈について演習を行う。 循環器領域の専門的治療技術(心血管インターベンション・ペースメーカ植え込み・カテーテルアブレーションなど)について演習を行う。
到達目標	① 循環器領域の幅広い知識を習得し、循環器日常診療において必要な診断と治療を遂行できる。 ② 循環器診断に必要な基本的診察技術が指導的立場で実践できる。 ③ 循環器診断に必要な基本的検査技術(心電図・運動負荷心電図・ホルター心電図・24j時間血圧測定・胸部単純X線・心エコー図・各種血管エコー図・CAVI・睡眠時無呼吸検査)の解釈と指導ができる。 ④ 日常の循環器診療に必要な検査技術(トレッドミル運動負荷心電図・運動負荷心筋シンチグラム・心臓CT)を単独で施行あるいは読影できる。 ⑤ 循環器の専門的検査技術(冠動脈造影を含む心臓カテーテル検査・電気生理学検査・経食道心エコー図)を指導医の管理下で施行あるいは読影できる。	① 循環器の専門的検査技術(冠動脈造影を含む心臓カテーテル検査・電気生理学検査・経食道心エコー図)を指導医の管理下で施行あるいは読影できる。 ② 循環器領域の専門的治療技術(心血管インターベンション・ペースメーカ植え込み・カテーテルアブレーションなど)のうちいずれかを経験し、その適応や意義を説明できる。 ③ 循環器疾患に関連する臨床薬理学を理解する。 ④ 卒前教育、卒後教育、コメディカルの教育を指導的立場で担当する。	① 循環器の専門的検査技術(冠動脈造影を含む心臓カテーテル検査・電気生理学検査・経食道心エコー図)を指導医の管理下で施行あるいは読影できる。 ② 循環器領域の専門的治療技術(心血管インターベンション・ペースメーカ植え込み・カテーテルアブレーションなど)のうちいずれかを経験し、その適応や意義を説明できる。 ③ 循環器診療に際して、倫理的事項や医療安全上の諸問題への対処が指導的立場で行える。 ④ 卒前教育、卒後教育、コメディカルの教育を指導的立場で担当する。
事前事後学修	①日本循環器学会診療ガイドライン、ACC / AHAガイドライン、ESCガイドラインを読んで理解すること。②観血的検査や治療については、手技の目的・手順・合併症などの詳細をシミュレーターなどにより事前に理解しておくこと。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。	テーマ毎に勉強会を行い、ガイドラインのみでなく、診療に関連する原著論文を渉猟する。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。	専門領域の実技講習会、ライブデモンストレーション等に参加し、知識の充実とトラブルシューティングについて学ぶ。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。
評価方法	実技の評価を口頭試問にて行う(40%) 講義、演習の評価は受講態度(20%)、発表(20%)、リアクションペーパー(20%)にて行う。	勉強会での発表のレポート(50%)、講義の受講態度(50%)を評価	実技の評価を口頭試問にて行う(50%) 学会、研究会発表に際しての準備や内容(50%)を評価する

■主な演習（講演・実習含む）

	循環器病学Ⅰ （1年次）	循環器病学Ⅱ （2年次）	循環器病学Ⅲ （3年次）
－	曜日 : ～ :	曜日 : ～ :	曜日 : ～ :
	曜日 : ～ :	曜日 : ～ :	曜日 : ～ :
	曜日 : ～ :	曜日 : ～ :	曜日 : ～ :
ちば	月 曜日 13 : 00 ～ 16 : 00	火 曜日 18 : 00 ～ 19 : 00	月 曜日 9 : 00 ～ 10 : 30
	冠動脈造影の見方	心臓カテーテルカンファランス	循環器病態学
	火 曜日 17 : 00 ～ 18 : 00	木 曜日 13 : 00 ～ 17 : 00	木 曜日 9 : 00 ～ 17 : 00
	循環器内科チャートラウンド	心血管インターベンション	冠動脈インターベンション
	水 曜日 15 : 00 ～ 16 : 00	金 曜日 13 : 00 ～ 14 : 00	土 曜日 9 : 00 ～ 11 : 00
	心臓カテーテル検査	心臓核医学検査	経胸壁・経食道心エコー判読演習
溝口	月 曜日 9 : 00 ～ 12 : 00	月 曜日 9 : 00 ～ 12 : 00	月 曜日 9 : 00 ～ 12 : 00
	冠動脈造影の見方	冠動脈インターベンション	冠動脈インターベンション
	水 曜日 9 : 00 ～ 12 : 00	水 曜日 9 : 00 ～ 12 : 00	水 曜日 9 : 00 ～ 12 : 00
	電気生理学検査判読	不整脈の治療	不整脈の治療
	木 曜日 15 : 00 ～ 16 : 00	木 曜日 15 : 00 ～ 16 : 00	木 曜日 15 : 00 ～ 16 : 00
	循環器病態学	循環器病態学	循環器病態学

教科書・参考書

個別に指定する。

その他履修上の注意事項

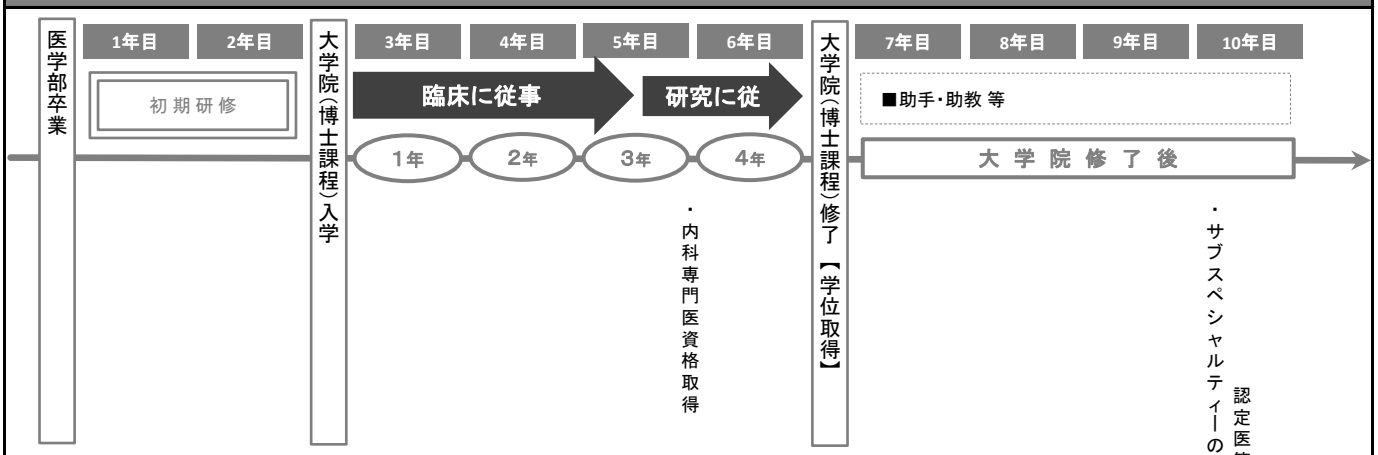
講義・演習・実習の詳細については個別に案内します。
外部での検査や治療の研修も適宜考慮される。
試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

関連科目		
	副科目	循環器以外の内科学など関連領域を1科目以上
	共通科目	循環器病学特論

関連する専門医資格

認定内科医・総合内科専門医（日本内科学会） 循環器専門医（日本循環器学会） インターベンション認定医・専門医（日本心血管インターベンション治療学会） 脈管専門医（日本脈管学会） 植え込み型徐細動器管理医 ペーシングによる心不全治療管理医（日本不整脈学会） 不整脈専門医（日本不整脈学会）

キャリアパス（モデルコース）



※社会人枠のキャリアパスについては各講座にお問い合わせください。